



# 春の素謡

# 仕舞の会

言葉の響きの美しさ——。  
**素謡** 能の台本を謡い語る  
**仕舞** 能の一部を紋付袴姿で舞う

葵 <small>あおいのうえ</small>	百 <small>ひやくまん</small>	熊 <small>くま</small>	頼 <small>より</small>
上 <small>あおいのうえ</small>	万 <small>まん</small>	野 <small>の</small>	政 <small>まさ</small>
AOINOUE	HYAKUMAN	YUYA	YORIMASA
吉浪 壽晃	大江 信行	井上 裕久	河村 晴道

山吹の瀬に影見えて  
雪さし下す紫小舟

花待ち得たり  
夢か現か幻か  
草の枕の露のせに  
松の尾小倉の  
里の夕霞  
盛り過ぎ行く  
山桜嵐の風  
旅人の  
春も惜しげなく  
花れし東のけしき  
花や散るらん

日時 令和7年 3月9日(日)  
 午前11時開演 (10時30分開場)  
 会場 京都観世会館  
 京都市左京区岡崎円勝寺町44(東山仁王門東入)

入場料  
 春・夏通し券 8,000円(前売のみ)  
 [当公演と7/13「夏の素謡と仕舞の会」チケットの2枚セット]  
 一般前売 4,500円  
 一般当日 5,000円  
 学 生 2,500円  
 全席自由席  
 ※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金

● チケットのお申込みは、お電話またはチケット販売サイト、出演能楽師へお願いいたします

ご予約・お問合せ

京都観世会館  
 京都市左京区岡崎円勝寺町44

TEL.075-771-6114  
<http://www.kyoto-kanze.jp>

チケット  
 販売サイト



# 春の素謡と仕舞の会

令和七年三月九日(日)  
午前十一時開演(十時三十分開場)

## 頼政

河村 晴道 越賀 隆之  
谷 弘之助 古橋 正邦  
河村浩太郎 河村 晴道  
深野 貴彦 片山九郎右衛門  
松野 浩行 越賀 隆之

仕舞 白楽天  
采女キリ

片山 伸吾 橋本 充基  
橋本 光史 橋本 磯道  
河村 和貴 大江 広祐

## 熊野

ツレ吉田 篤史 浦田 保浩  
井上 裕久 風矢  
ワキツレ浅井 風矢

休憩二十分

仕舞 田村キリ  
西行桜 野守

宮川 卓也 河村 晴久  
吉田 篤史 井上 裕久  
浅井 風矢 浦田 保浩  
松井 美樹 林 宗一郎

## 百万

(一時四十五分頃)

子方大江 菜理

大江 信行 橋本擴三郎

地謡

片山 峻佑 橋本 光史  
樹下 千慧 大江 信行  
大江 広祐 橋本 雅夫  
梅田 嘉宏 橋本擴三郎

仕舞 水室 兼平  
歌 桜川 占

深野 貴彦 吉田 和史  
河村浩太郎 田茂井廣道  
分林 道治 浦田 保親  
杉浦 豊彦 井上裕之真

## 葵上

ツレ橋本 忠樹

吉浪 壽晃 大江 泰正

青木真由人 河村 博重  
橋本 忠樹 吉浪 壽晃  
河村 和貴 武田 邦弘  
寺澤 拓海 大江 泰正

附祝言 四時前

主催 公益社団法人 京都観世会

※時間はおよその目安です

### 素謡(すうたい)とは

能の台本(謡本)を、舞台上で誦(うた)う演奏形式です。誦(うた)と謡(うた)とで情景や心情を表現します。能には「源氏物語」や「平家物語」などの古典を題材にした名作が多く伝わっており、詞(ことば)の美しさは高い評価を得ています。素謡はその「誦(うた)と謡(うた)」のみのシンボリックな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。

### 仕舞(しまい)とは

能の一部(見せどころ)を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもあります。舞い手の骨格が見えやすいため、能のダンスと評され、演者の個性と技を楽しめます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

### 頼政(らいせい) あらすじ

源三位頼政は、武勇の誉れ高き平安末期の武将でありながら、優れた歌人でもありました。能「頼政」は、老体の頼政が、宇治の合戦(以仁王の乱)で敗れ自刃するまでの様子を描く。修羅物の中でも難曲とされるひとつです。

旅の僧が宇治で出会った老人は、宇治の名所の数々を僧に教え、宇治平等院の扇の庭を案内し、ここが頼政自害の場所であることを教え、姿を消します。やがて僧の夢中に現れた頼政の霊が、疲労が激しい高倉宮(以仁王)を休ませるために平等院に陣をはり、平家軍と激しく戦うも敗れ、平等院の庭に扇を敷き、自害に及んだことを語ります。前半は宇治の名所が叙情的に、後半は臨場感ある合戦の様子が敵方志願の戦いぶりまでも勇壮に語られる一曲。世阿弥作。

### 熊野(くまの) あらすじ

都大路の春は今が盛り。平宗盛は、愛妾熊野の母親が病床に臥していることを知りながら、熊野を花見の供にと都へ留めていました。清水の花見の道は春爛漫でしたが、熊野の心は母の事ばかり。清水に着くと、まず観世音に母の快復を祈る熊野。気持ちとしては裏腹に酒宴は始まり、宗盛に舞を所望され熊野は舞を舞いますが、そこへ俄かに村雨が降り出し花を散らします。熊野は舞をやめ、いかにせぬ都の春も惜しけれど、馴れし東の春や散るらん」と短冊にしたためます。都の春も愛しいけれど、慣れ親しんだ故郷の花(母の命)は今まさに散ろうとしている。この歌に、宗盛もさすがに哀れを感じ、熊野に眼を出します。雲かと思えて八重一重咲く九重の花盛り——都大路の春、清水の花、散りばめられた美しい詞にも耳を傾けてください。

### 葵上(あいのう) あらすじ

春、大和国吉野の男が奈良西大寺の辺で拾った少年を連れて、都 嵯峨釈迦堂の大念仏に参詣します。すると、一人の狂女が現れて念仏の音頭を取り、我がが狂女といふと舞い、仏前に祈りを捧げます。女はそれこそ、都の都の狂女を尋ねます。母と自分は奈良の都の百万という者で、夫とは死別し一人子とは生別したのが心乱れたのだと答え、法梁の舞を舞い、子を尋ねて迷い歩いた様子などを見せます。あまりに痛々しく思った吉野の男が少年を引き合わせると、女は夢かと喜び、これも私の功德であると感謝し、母子うち連れて奈良の都へと帰ってゆくのでした。観阿弥が得意とした「嵯峨の大念仏の女物狂」の能を、世阿弥が改修して仕上げた一曲。

### 予告 夏の素謡と仕舞の会

令和七年 7月13日(日) 午前11時開演

素謡 「賀 茂」 林 宗一郎 仕舞 十番  
「雲 林院」 古橋 正邦  
「大原御幸」 観世 清和  
「鶴 飼」 浦部 幸裕



### 【交通アクセス】

#### JR京都駅から

- 地下鉄丸丸線「丸丸御池駅」にて地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車、①番出口より徒歩約5分
- 京都駅前バスのりばA1よりバス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、D2より86・206系統「東山仁王門」下車(乗車時間約30分)

#### 四条河原町から

- バスのりばEよりバス31・46・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)

#### 京阪三条駅から

- 市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
- 地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車

※上演中の写真撮影・録音・録画はお断りします。  
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。  
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
※お車の方は、会館東隣りの有料駐車場、または岡崎公園市営駐車場等をご利用ください。  
※公演中止の場合を除き、入場券払戻はできません。